

さぽうと21卒業生からの力強いメッセージ「マンスリーサポーターになります!」

新年度から早3カ月、さぽうと21の卒業生からお便りが届いています。

商社で働き始めたBさんが、「一人でも多くのさぽうとの後輩が夢を叶えられるよう力になりたいです!」とマンスリーサポーターになってくださいました。今や、応援する側として後輩たちを支えています。

6月には、社会人から学生に戻ることを決めたNさんが、「来月から渡欧し、医師免許の取得を目指します!」と出発前に事務所を来訪。看護師資格を得て一度は就職したものの、医師資格取得の挑戦を決意。学力面の苦難や経済面での困難がありながらもひたむきに挑戦するNさんは、医療分野を目指す支援生にとって、身近な目標になると思います。

そんな先輩達の声の後輩達に届けようと、昨年度は、社会人1～6年目の元支援生による「卒業生を囲む会」を開催。現支援生からは“就職”に関する相談が多く寄せられるため、多方面で活躍する先輩から現在の仕事についてお話を聞き、卒業後のキャリアについて考える機会を設けました。

活躍する先輩たちの姿は、後輩たちにとっての憧れであり、希望や夢を追い求める大きな力になるのだと思います。



元支援生の吉田源一さんには空港の保安検査員のお仕事について話していただきました。

2017年度支援生が決まりました!引き続きご協力お願いいたします。

2017年度は12ヶ国につながる支援生61名(生活支援生50名・坪井支援生11名)が決定いたしました。内訳は以下の通りです。

国籍	人数
ベトナム	20名
ブラジル	8名
ペルー	8名
ミャンマー	7名
中国	4名
フィリピン	1名
イラン	1名
カンボジア	1名
コンゴ民主共和国	1名
シリア	1名
エリトリア	1名
日本(ベトナム、カンボジア、ブラジル、中国)	8名

高校:25名、短大:1名、専門学校:2名
大学:26名、大学院:7名

◆ 支援生の今年の目標 ◆

- ・いただいている生活支援金で、英会話の学習を始めます(高校生、ベトナム)
- ・来年、大学で生物学を学びたいので、毎日受験勉強です(高校生、ベトナム)
- ・2級建築士の資格を取得したいです(専門学校生、ベトナム)
- ・将来、社会福祉士として働くために、高齢者施設での実習に取り組んでいます(大学生、ペルー)
- ・通訳案内士試験に挑戦します(大学生、中国)
- ・教員免許の取得を目指しています。外国にルーツがある子どもたちをサポートすることが目標です(大学生、ペルー)など、さまざまです!

来年度の支援生の募集は以下を予定しています。

- 生活支援生:2017年11月～12月
- 坪井支援生:2017年9月～10月 ※詳細はホームページをご確認ください。

さぼうと21夏期研修会

外国にルーツをもつ学生の「働き方」発見セミナー

平成29年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

働く現場を体感し、将来の働き方を考える

将来の仕事の選択肢を増やすため、大学などに進学を希望する学生が増えています。しかし、ロールモデルとなる大人と出会う機会が少ないことや、日本語力や情報収集力の不足などから、日本の「就職活動」の波にうまく乗れない学生も

います。そこで、今年の夏期研修会では、就職活動や進路選択に有益な機会を提供しようと、企業や団体の方々の協力のもと、「進学・進路選択に関するワークショップ」と、「職場訪問」のプログラムを実施します。

2017年度 8月20日(日)～22日(火) 2泊3日

宿泊：晴海グランドホテル(東京都中央区晴海3-8-1)

1日目：進学・就職に関するワークショップ

高校生には、就職を見据えた学校の選び方や、進学を考える際に必要となる学費などの情報を提供します。就職活動を控える **専門・短大・大学生** には、会社選びの基準や、就職活動の全体像などを学べるワークショップを実施します。

2日目：職場訪問

会社が営む事業の種類(業種)や、そこで働く人の役割(職種)について学び、自分の特性にあった仕事選びが出来るよう、「職場訪問」をさせてもらいます。将来に向けての資格取得など、参加者の主体性を養うことも狙いです。

3日目：プレゼンテーション・スキルを学ぶ

株式会社セールスフォース・ドットコム 東京本社を訪問し、「職場訪問」で得たことをグループで発表します。社員の方から、資料の作成方法や、発表方法についてアドバイスを受けます。お楽しみ企画で「丸の内ツアー」も行います。

参加予定の61名の学生にアンケート

関心のある業界と、社員の人に聞いてみたいこと

通訳/翻訳

IT

旅行

航空

教育

流通

など

- 進路が決まっていない時、どのように考え、決めましたか？
- 外国籍は、就職活動の時に不利にはなりませんか？
- 就職してから挑戦していることはありますか？

など

※参加予定の学生(高校・専門・短大・大学・大学院)61名に聞き取り。

これまでに実施した「キャリア教育」プログラム

2015年度

色々な職業を知ろう！



金融、IT、福祉、商社、不動産、観光、NGO、通訳・翻訳、国際協力、美容分野で働く14名の社会人を講師にブースを設置。仕事内容や必要な資格などアドバイスを受けました。

助成：平成27年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

② 卒業生を囲む会



11月に社会人1～6年目の元支援生との交流会を開催。メーカーや人材紹介、航空、保育などで働く先輩が、仕事や就活について話しました。先輩同士の交流にもなりました。

協力：さぼうと21元支援生、Project HEAT (HSBCグループ)

2016年度

① 会社に行ってみよう！



8月に「会社訪問」を実施。iPadを使った「適性職業診断クイズ」や、「IT・技術」、「営業・マーケティング」、「バックオフィス」で働く社員10名以上から話を聞きました。

協力：株式会社セールスフォース・ドットコム、Project HEAT (HSBCグループ)

③ 就職活動セミナー



3月に「就活セミナー」を実施。主に就職活動を控えた大学生を中心に、「自己PR」と「志望理由書」の書き方について、社員の方からアドバイスを受けました。

協力：株式会社セールスフォース・ドットコム、Project HEAT (HSBCグループ)

学習支援室、今日も皆様に支えられて

スタッフやボランティアも学びの機会を得て

東京都在住外国人支援事業助成

平成28年度は「東京都在住外国人支援事業助成（民間団体が行う、東京都内の在住外国人を支援する事業に対する東京都からの助成）」をいただき、毎週の学習支援室の開催に加え、スタッフやボランティア対象の勉強会を実施することができました。

2016年6月18日には、小川郁子先生（元北区立稲付中学校日本語適応指導教室教員）から、外国につながる中学生対象の学習支援についてお話をうかがいました。「どの教材が使いやすいか」「どんな順番で何をどのように指導していくか」など具体的なお話が続き、あっという間に予定の2時間が過ぎてしまいました。「外国につながる子ども達の学習支援は、何を『削いで』指導するかが大切」という一言が、日頃の学習支援の活動にぴったり重なった印象を抱きました。

また、11月18日には砂井紫里先生（早稲田大学イ

スラーム地域研究機構・招聘研究員）から「暮らしの中のイスラーム」と題して基本的なお話をうかがいました。徐々に増えつつあるイスラーム圏出身の方々からの様々な相談にどのように対応していくかを考える、絶好の機会となりました。



イスラームの方々の価値観や考え方についてお話しくださる砂井先生

ボランティア発信で動き続けるワークショップ

皆様からのお米や食材のご提供

さぼうと21では、毎月、第2週は「カフェ」開催、第3週は「セルフおむすびの日」として、少しずつ「食」についての関心が高まっています。そんな中、5月27日には、「お弁当作りワークショップ」が行われました。参加者は20名弱。母子参加もあれば、ボランティア・学習者のペア参加もあり。この日のためにカフェチームのボランティアの方々をご用意くださった資料をもとに、「三色弁当」づくりに挑戦しました。参加者それぞれの個性がいかんなく発揮され、仕上がりは見事なほどに個性的でした。お母さんの真剣な表情も、子ども達の慎重な手さばきも、日頃の学習支援室での表情とは「一味」違うものでした。大勢の方が

お米や具材をお持ち下さっています。改めて感謝申し上げます。



個性あふれる三色弁当。みんな違ってみんなよい！

子ども達にも居ごちの良い場所を

IBM コミュニティグランツ助成

思い起こせば10年前。さぼうと21に勉強に来ていた子どもといえば、小学生たった2名。今、その2人は、1人は社会人、1人は大学生になっています。今や、小中学生の数は20名を超え、学習支援室は「大人の学習の場所」から「大人と子どもの学習の場所」に大きく姿を変えました。子どもが小学校に入学すれば当たり前のようにお父さん、お母さんと通学を始めます。とはいえ、これまで「勉強」になじみのなかった子ども達からすれば、学習支援室は不思議な場所。人がたくさん集まる楽しいだけの遊びの場所と勘違いする子も少なくありません。そんな子ども達も安心して学べる場にできないかと、2016年度の「IBM コミュニティグランツ（※日本 IBM グループ社員および定年退職者が積極的にボランティア活動を

実施し、地域社会の非営利団体や学校での活動を支援するために、製品の寄贈や資金援助を行うもの）」では、子ども達にとって座り心地の良いテーブルや椅子を買わせていただきました。大人目線で子ども達と対するのではなく、子ども目線で共に学べる環境づくりを進めることができました。



机もイスも本棚もかわいい！

東日本大震災関連支援事業

津波で活動拠点を失った障がい者福祉事業所「かたつむり」の施設完成を祝って

大船渡市から安全な高台に移転するよう通知を受けてからほぼ3年となった2017年6月24日。梅雨の晴れ間の竣工式には、施設関係者や利用者約30名とそこご家族をはじめ、市議会、行政、学校関係者の他、かたつむりと協働している企業・NPOや地元の方々など、出席者は100名を超えました。

さぼうと21を通じ、建築費用をご支援くださったサンキョー株式会社 阿部 恭久 代表取締役社長や、大船渡市の戸田 公明市長などからお祝いの言葉が述べられました。阿部様からは、被災直後より、同社の店舗で集めてくださった募金についてもお話いただきました。安倍 晋三首相からの祝電も披露されました。

祝賀交流会では、お祝いに駆けつけたバンドグループの演奏に、利用者の皆さんが大喜び。東日本大震災という大きな困難を乗り越え、新たなスタートを共に祝うことができ、深く感謝しております。地域において「居場所のない子どもをつくらない」ことを目標にしてきたかたつむりですが、これまでの利用者の中には、一般就労者として正規雇用された方や、原付免許を取得した方もいます。

就労支援が、多くの出会いのおかげで、実を結びつつあると感じております。

さぼうと21として皆様のご支援に改めて厚く御礼申し上げます。



新しく完成した施設の前で記念撮影

さぼうと21の25周年を記念し、「pp奨学金」が設立されました

お客さまと企業のマッチングプログラム。昨年度、新たに日本人を対象とした生活支援金「pp奨学金(通称:パチンコ・パチスロ奨学金)」を試験的に発足させました。国内の大学等に通う18歳以上で、経済的事情により学業の継続が困難な方を対象に、返還義務のない「生活支援金」を支給します。2017年度の支援生としては8名が選ばれ、年間を通して月額30,000円～50,000円を給付していく予定です。

2018年度の支援生募集につきましては、2017年9月頃に募集開始の予定です。詳細は、当会ホームページをご参照ください。



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.63 2017.8

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は…

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、定住外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。

認定NPO法人難民を助ける会(AAR JAPAN)を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省(当時)認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。

「困った時はお互い様」をモットーに、日本国内で政治・宗教に中立な立場で活動しています。

学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援して下さる方を求めています!

■会 員：法人会費50,000円/個人会費5,000円

■ご寄付：随時受付

■マンスリーサポーター：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	振替口座：00180-7-25470 加入者名：社会福祉法人 さぼうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店(普) 851872 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普) 1180279 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

社会福祉法人 さぼうと21

住所：	〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル6階
TEL：	FAX：
03-5449-1331	03-5449-1332
E-mail：	URL：
info@support21.or.jp	http://www.support21.or.jp

